

義父房州の果實をたまふ

義父の心こもれる思ふ房州ゆ今日はるばると着きし枇杷の實

房州の強き日射しに熟れたるか大き李のまるまる赤し

義父のたびし大き李の赤々と灯に照れる見れば喰ふには惜しき

年々を送り来し枇杷この年もわが手にするよ黄なるつぶら實

ここに於て見ることもなき枇杷李今日の机に山と盛られし

(昭和十五年「山桜」九月号)